

2010/03/24 AM CECAP (メキシコ指導者養成学校) 報告

メキシコ指導者養成ダイレクター エドモンド チャベス氏

1958 指導者養成部門 創設

当時は経験論のみであったが、だんだんプログラムとして確立されてきた。

1967 現施設は、1970メキシコワールドカップの為に代表チームのドミトリーとして建てられた施設。

1999 強化施設はナショナルトレーニングセンターの新設。  
(セントロラガッソから買い取る)

\* F A オフィス・指導者・審判養成施設としてのみ活用

メキシコ F A はこの① C E C A P と② ナショナルトレーニングセンター (代表チーム事務局・合宿) と③ メキシコサッカー協会オフィス (プロリーグ管理等その他) の 3 つに分かれる。

#### CECAP (メキシコ指導者養成学校)

メキシコ F A の中心部で 4 つの部門から成り立つ

- ① 指導者養成・ライセンスオフィス
- ② 審判養成・審判オフィス
- ③ アマチュアリーグのオフィス
- ④ 規律委員会

#### 【指導者養成コース】 F I F A 公認

講義形態は、毎週【月火】の 2 日間と【水木】の 2 日間のどちらかのコースを選択し、15時～21時まで6時間で3単元を実施する。実技レベルも講義内容のレベルも高く、受講生とコミュニケーションを重視し、意識付け・モチベーションを持たせる工夫、集中させる工夫が随所に見える。半年『レベル1』・1年『レベル2』1年半『レベル3』2年『レベル4』を毎週繰り返し受講していくため、じっくり熟成させながらの実践力が身に付き、指導者の1ヶ月・3ヶ月・半年・・・2年間の成長が顕著に伺える。このことは、理論だけはしっかりしているようで、指導力のない指導者が出ないように工夫する観点で、①毎週2日間の講習を受け、そのほかの日に実践で試せる形式になっている。②講義・実技が少人数で構成され、現場の実例を具体的に取り上げ、ディスカッションを行うことにより実に活気のある講習になっている。ハイレベルで生き生きしている講習の所以である。

また、受講生は18歳以上で、毎年800人の卒業生を輩出し、各レベル卒業しないと活動はできない。メキシコには20の養成学校が存在し、パチューカサッカー大学、グアダハラ大学、モンテレイ工科大学や各トップクラブチームを拠点としている。各州公的機関や各大学・各クラブと密接に協定している組織力の成果は大きい。試験については、本部からインストラクターが派遣される。また、プロレベルの指導者(レベル3・レベル4)は、2年に1回、3泊4日の更新講習が義務づけられている。講習内容については、

伝統のある各クラブと一緒に検討を重ね、より内容のあるカリキュラムに更新している。

〔指導者養成の4つのコース〕

(一番長いコースで2年間、1,000時間)

1コース半年間。約10万円

『レベル1』(250時間)〈実技・理論・面接の試験実施〉

名称・・・インストラクター(レベル1のコーチの名称)

対象・・・少年少女(子供)

評価・・・教育的観点からモデルを見せて、実践し修正ができることを評価。

『レベル2』(250時間)

名称・・・トレーナー

対象・・・ユース

評価・・・テーマに応じてプランニングし、実践し修正ができることを評価。

『レベル3』(250時間)

名称・・・アシスタントコーチ

対象・・・プロ(のコーチ)

評価・・・テーマに応じてプランニングし、実践し修正ができることを評価。

『レベル4』(250時間)

名称・・・テクニカル(ヘッド)コーチ

対象・・・プロ(の監督)

評価・・・3週間の実践(2週間のトレーニング・1週間のゲーム)

受講生は3週間の間、自分のチームを結成し、プランを立てトレーニングを実施。

3週目は、対戦チームを連れてきて、ゲームを実施し修正を評価。

〔カリキュラム〕

グアダラハラ・・・1日3H 週4回(19時～22時)

メキシコシティ・・・1日6H 週2回(15時～21時)(本部)

〔講義内容〕4つの観点

① 技術・戦術 ②心理学的観点 ③医学 ④コーチング方法論(教育論)

② U-17・20のナショナルチームトレーニングへ受講生訪問、ディスカッション。

[ベイシックコース]

\*このコースは試験がなく、資格の証明がない。

対象・・・週末のみ街クラブ等でチームを持っている人等。

内容・・・16時間×4部門（技術・心理・医学・コーチング論

[年1回：3日間イベント]

小型カンファレンスで海外より講師招待。

4つのセッション（GK・ユース育成・心理・フィジカル）実施。

誰でも参加可能。

[インストラクター]

インストラクターは長い間サッカー協会に携わっている各分野の専門家である。

付属の養成学校インストラクターは、年1回1～2週間、本部で実習を受けて地方で活動している。本部には12人の専任インストラクター配属されている。支部インストラクターについては、各クラブチームの指導者であり、他の仕事をしている。よって支部インストラクターには、年に1回3～4日の講義・再試験を実施している。

{フィジカルトレーナーコース}

フィジカルトレーナーも、1000時間2年間の講習である。

『まとめ』

メキシコの指導者養成の特長は、講習と指導実践を繰り返しながら長い期間をかけて指導者を育てている点である。全国に20か所ある指導者養成学校で多少の差はあるが、メキシコ指導者養成学校（CECAP・本校）では週に2回6時間の講習を主に午後から夜にかけて受講し、他の日は自チームの指導を行いながら指導者のライセンスを取ってゆくシステムを取っている。レベル1～レベル4まで4つのライセンスがあり、それぞれ250時間の講習を6ヶ月で取得し、レベル4まで習得するのに最短で2年の期間がかかる。このシステムは、講習と指導の実践をバランスよく行うことができ、指導力を確実に身に付けてゆく点から考えて大変合理的であると感じた。現在日本で行っている指導者養成のやり方とは大きく異なる点であり、参考となる点でもあると思われる。また、講義では指導現場の実例を上げて講師と受講生が多くのディスカッションを行っている点も特徴的であった。受講生の国民性もあると思うが、講習は全員参加型の活気のあるものであった。今後日本の指導者養成のシステムを検討してゆく中で参考となる点が多くみられた。（大野著）

◆実技・講義に潜入

3/25 PM15時～ レベル2実技『ゴールに向かってのシュート』

15:16～1640 (始まるの時間は少々ルーズだが、内容はきっちりやる)

- ① ウォームアップ
- ② パス・ターン・シュート
- ③ ゴール前1対1
- ④ ゴール前2対2+2サーバー
- ⑤ ダブルボックス4対4+2サーバー (ヘディングのみ・制限なし・中ダイレクト)

受講生の技術レベルは高い

16:00～半面平行して、フィジカルトレナーコース実技

17:00～審判養成コース実技

17:00～トレーニング理論100分 (レベル3)

受講生12人、受講生とコミュニケーションがとれた素晴らしい授業で内容のレベルが高い。

19:00～戦術の講義100分『レベル3』

ゲーム分析

週間トレーニング

## ◆トピックス

### 【審判部門】

- ・毎週水曜日、各州支部審判委員会とのネットでの話し合い実施。付属の養成学校との連携。会議室にて、各クラブチームの会長会議実施。
- ・審判委員会スポンサー・・・コメックス（10ヤードのラインスプレー使用）  
ポスター・・・スポンサーの宣伝のみならず、トップ審判員の宣伝。ステイタスの確立。  
審判の本当の価値を高める。と同時にスポンサー料を若手審判員育成資金に使用。
- ・毎週1回、クラブチームテクニカルコーチと審判委員会の話し合い実施。
- ・定期的に必要なに応じU-17・20の選手達にジャッジについてのレクチャー実施。
- ・プリメイラ・プリメイラA・セグンダ・テルセイラ、プロリーグ審判員650人。
- ・審判で生計をたてている人は（プリメイラ・プリメイラA）80人。月収8千ドル。
- ・毎週3回：朝6～8時の審判トレーニング・体重チェック。水曜日夕方、講義受講。  
体重チェックでオーバーの者は、猶予8週間で合格しなければ、除名。  
3都市（シティ・モンテレイ・グアダラハラ）にプロ審判員集中。
- ・女子も同じ土俵で評価し、女子審判員も多く育つ。

### 【規律委員会】

7名で構成（FAより@独立）・審判からの報告書（レポート）を基に審議決定。  
多くのクラブクラブからの苦情を受けるストレスの多い機関。よって構成メンバー7名はサッカーの元プロ選手であり指導者であり審判であり「人格者」であるメンバー。

### 【サッカースクール・ユース代表トレーニング等】

- ・サッカースクールは現在400人。多いときで1200人。地域の普及と貢献のために実施。
- ・ナショナルトレーニングセンターが使用されているとき、ユースチームが活用→指導者育成実践やディスカッションに活用